



No25 どの子にも効果的な授業力アップ 学習適応への小さな工夫(4)

「宇都宮市特別支援教育基本計画」の基本理念に、『自信と意欲をもって』というフレーズがあります。

発達障害の傾向がある児童生徒は、表面的にできる言葉は、「うるせー!」とか「わかってる!」とか、心のバリアーと思われる言葉が出てしまいますが、本当は、自信とか意欲がもてないでイライラしているのです。

次に取り上げた文章は、ある中学校に入学して間もない頃に書かれた「新しい自分」という題の作文から抜粋したものです。

《かんじをおぼえるのがにがて、けどせんせいはやればできるとはげましてくれる。けど、みんなのさくぶんとぼくのさくぶんはすこしがう。

みんなのさくぶんとぼくのさくぶんをくらべてみていつもおちこんでしまう。》(作文は「見て分かる困り感に寄り添う支援の実際」 佐藤暁著 より抜粋)

小学校の時から、苦手意識はあったけれど、なんとか学級の中で得意なことを認めてもらいながらやってこられた児童も、中学校に入ると急激に自信をなくすことがあります。でも、心の中では、「できないけれども、がんばりたい」という希望をいだいて中学校に入学していたのです。

ある中学校では、そういった生徒たちに「自信と意欲」を出来るだけもたせようと、先生方で共通理解を図り、下記のような取組を行いました。その概略を紹介します。



今月号のテーマ 自信と意欲をもたせるための手立ての工夫

全員が取り組めるもの

達成感が見えるもの

まず、「基礎学力」の定着を目指す取組を開始しました。

漢字や計算、作文力など、反復的・系統的に取り組める課題を設定し、一定の時間を決め着実な積み重ねを行っていきました。取組の一つとしては、国語の時間の「5分間視写」。ねらいは、書く力を伸ばす、いろいろな表現の言葉にふれる、漢字力をつけるなど。易しい文章(少なめの文)から高度な文章(長い文)まで、ステップを考えた課題を用意しておき、自分のペースで進めるようにする。用紙は、5分間で視写しやすく、課題と同じように視写できる1枚ごとの用紙を用意しておく。(課題は、図鑑や百科事典、小説、新聞記事など、先生方が協力して収集し作成したもの。使い回しができるように、ケント紙など厚紙に印刷しておく。視写した自分の作品は、先生が目を通した後、自分のファイルに蓄積しておくなど。これは、目に見える達成感につながります。

自分の達成度をみる

誰かと比べるのではなく



常日頃から、生徒との話の中で、「大切なこと」として伝えておくことがいいと思います。例えば、大切なのは、「今の自分より、一步前進した自分になったかどうか」「一步前進しようと努力しているかどうか」であり、「誰かを見て、あの人みたいにできないと落ち込む」とか、「あの人よりはできると安心する」など誰かと比べることではないことなど。

ぼく(私)も少し頑張っているな・・・という自信をもたせたいものです。